

地震後の火災防止について(注意喚起)

地震発生後においては、過去の事例から、裸火の使用や停電からの再通電などにより、火災発生の危険性が高まりますので、以下の点にご注意ください。

① 明かりや暖をとる目的で、屋内でろうそくなどの裸火は極力使用しないでください

- ・地震で物が散乱し、平常時には無い場所に燃えやすいものがあるなど、屋内はいつにも増して裸火から着火しやすい状況にあります。
- ・また、避難生活や復旧活動の疲れから、注意が十分に行き届かない場合があります。余震のおそれもあります。
- ・万が一着火した場合には、避難や消火が通常の火災より困難です。
- ・ろうそくや炭、練炭などを、普段と異なる環境で使用したり、想定されない使い方をするのは大変危険です。

② 通電火災は防げる災害です

- ・停電中の自宅を離れる際には、ブレーカーを落としてください。
- ・給電が再開されたら、電気機器が破損していないか、配線やコードが損傷していないか、燃えやすいものが近くにないかなど、十分に安全を確認してからブレーカーを戻してください。
- ・地震によってスイッチが入った機器がないか確認してください。
- ・停電によって、スイッチが切れたように見えているだけの機器もあります。
- ・タイマー機能により、通電再開直後ではなく時間が経過してから電気機器が作動する場合があります。また、普段設定している時刻とは異なる時刻に作動し始める場合があります。
- ・建物や電気機器に外見上の損傷がなくとも、壁内配線の損傷や電気機器内部の故障により、長時間経過した後、火災に至る場合があります。

③ ヒーターなどの熱源の目的外使用は危険です

- ・例えば、投げ込み型湯沸かしヒーターを、風呂の湯沸かしに使うことなど、本来の目的でない熱源機器の使い方をすると、過熱防止等の安全装置や本来

の安全性能が機能しない場合があります、火災発生のおそれがあります。

④ 薪ストーブや風呂釜、ボイラー等の煙突の破損による火災

- ・地震で煙突が破損し、又は屋根や壁を貫通する部分に隙間や外れが生じた状態で薪ストーブや風呂釜、ボイラーなどを使用すると、火災になる危険があります。
- ・使用前に煙突に異常がないか確認するとともに、使用中、使用後も十分気をつけてください。

⑤ カセットコンロの使用上の注意

- ・鍋底がカセットボンベの上を覆うと、過熱して爆発するおそれがあります。
- ・カセットボンベの装着不良によるガス漏れ、衣服や髪への着火の危険があります。余震によるコンロの落下にも注意してください。
- ・カセットコンロの安全な使い方((一社)日本ガス石油機器工業会)
<http://www.jgka.or.jp/consumer/gasu-riyou/anzen-gasu/cassette/index.html>

⑥ 車中避難における喫煙の注意

- ・吸いかけのたばこや火種が落下して、車が火災になることがあります。
- ・吸っている間に寝てしまわぬよう、気をつけてください。
- ・車中が生活空間となり火災の潜在危険も増しています。
- ・灰皿に吸い殻を溜めないように心掛けてください。

問い合わせ先
消防研究センター 研究企画部
TEL:0422-44-8331
メール:toiawase2016@fri.go.jp